

市内全小中学校がコミュニティ・スクールとなって3年目の1学期が終了しました。評議員会時代と変わらずに学校からの報告事項が中心であった学校運営協議会で、学校課題や教育課程、地域学校協働活動を取り入れた新しい教育活動が熟議されたり、個々のボランティアによる一方的な学校支援が、地域の諸団体とのネットワークを構築した教育活動支援となって地域貢献へと繋がったりするなど、着実に前進しています。

今年度は今の歩みを止めることなく、さらに望ましい学校運営協議会、そしてこれからの時代に求められるコミュニティ・スクールの姿に近づくための重点を設定して研修を進めています。No.10では、改めてその重点を確認するとともに、学校運営協議会での熟議によって、昨年度から大きく実施方法を変更し、子ども達の生き生きとした活動と地域のみなさんに笑顔をもたらした布佐南小学校の七夕集会の様子について紹介します。

【コミュニティ・スクールの推進に向けた今年度の重点】

①学校運営協議会委員が授業を中心とした学校の教育活動に参画

学校運営協議会は学校の辛口応援団であるとともに、経営パートナー、そして評価者でもあり、年度初めには学校教育目標や運営方針、ビジョンの承認と共有を行います。しかしながら、委員のみなさんからは「4月に紙面で説明されただけではよくわからない」「専門的な言葉が並んでいて難しい」「具体的なイメージがわからないので自分が何をすればよいかわからない」といった声が聞かれており、これが正直な意見かと思えます。

学校と地域が目標を共有するのは実は簡単なことではないのです。そして、これを解決していく唯一の方法は、学校運営協議会委員に日常の教育活動、特に学校経営の柱である授業を見てもらい、委員自らで学校が掲げる目標や描いているビジョンがどう反映しているか、反映させようとしているかを体感してもらうことにあると考えます。

<学校管理職並びに学校運営協議会委員代表者コミュニティ・スクール研修会>

①の重点に向けて、6月28日(金)、牛久市でコミュニティ・スクールを土台とした小中一貫教育に先進的に取り組んでこられた牛久第一中学校・本橋元校長先生を講師としてお招きした研修会を実施しました。

本橋先生のお話には多くの学びがありましたが、特に、「学校運営協議会委員には『学校を内側からのまなざしで見よう』』という考え方をベースに「委員が学校の授業研究会に参加し、振り返りの会では教職員とともに子どもの姿について語り合う」という実践には参加者からも「なるほど!」という驚きの表情が感じ取れました。

以下に参加者の感想を紹介します。

- ・委員の立場でどのように学校と関わっていくか、今日の研修会でやる事が明確になった
- ・委員としての関わり方に迷いがあったが、学校作りの基本は授業であり、これから積極的に参加したい。
- ・委員の方々に授業をベースに学校運営に関わってもらうという考えに共感した。年4回の会議だけでなく、日常的に子ども達が学んでいる姿を見てもらおうと思う(校長)。
- ・授業で子どもの姿を通して学校運営を考える、子どもの姿を見ていただいて学校の目指している姿を共有し協議していくことが必要であると感じた(校長)。

②地域学校協働活動を取り入れた中学校区独自の小中一貫カリキュラムの開発

中学校区を単位として小中一貫教育を進めていくのは、地域が同一であるが故、地域絵ぐるみで育てたい子ども像を共有し、同じベクトルで子ども達を育てるのに最適だからです。

そのために各学校・中学校区はコミュニティ・スクールとして「地域とともにある学校」を目指すわけですが、残念ながら学校運営協議会で熟議されているはずの「育てたい子ども像」を実現するための小中を一貫したカリキュラムは全ての中学校区にはないのが現状です。

コミュニティ・スクールが軌道に乗りつつある今、子ども達の豊かな学びや体験活動を地域学校協働活動によって取り入れながら、各中学校区の育てたい子ども像を実現するためのオリジナルカリキュラム作成に向け、学校運営協議会でも熟議していただければと思います。

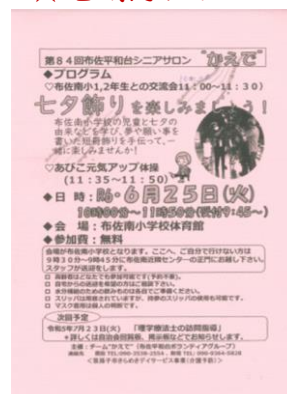
【装いを新たにした七夕集会 布佐南小学校1・2年生】

6月25日(火)に布佐南小学校の1・2年生が体育館で七夕集会を実施しました。今年度の実施に当たり学校運営協議会での熟議が土台となり、それまでの取り組み方を大きく見直し、子どもたちにとってより意義深い実践となった事例です。

例年、布佐南小学校では低学年で七夕集会を行っており、学校運営協議会で議題となりました。内容は実施方法の見直しについてです。具体的には、昨年度まで教職員が準備から企画・運営のほとんどを担い、当日は子どもたちが近隣センターに出向いてシニアサロン「かえて」というグループの方たちと一緒に集会を行うという方法でした。

学校運営協議会では、委員の中に「かえて」の方がいるということもあり、学校側からこの集会を実施するに当たっての悩みが率直に問題提起されました。現状の方法では教職員の負担が重いこと、子どもたちも近隣センターまで出向いても、短冊に願い事を書いて飾るだけでは「あっ」という間に会が終わってしまうことなどです。

☆地域向チラシ



そして、その問題提起を受けて学校運営協議会で熟議を重ねた結果、

- ①会場を学校に変更すること
- ②会場準備、七夕飾りの見本などの用意を「かえて」が行うこと
- ③地域の高齢者を招き、「かえて」のメンバーも含めて子どもたちと一緒に触れ合いながら会を進めること
- ④会の終了後に「かえて」が実施する高齢者の体操の時間があるので、学校から体育館を借用すること

などがスムーズに決まっていきました。

下の写真は「かえて」の方で用意していただいた七夕飾りの見本とそれを見ながら子どもたちと一緒に飾りを制作してくれている地域の方々の様子です。



子どもたちは短冊に願い事を書くのはもちろん、飾りの見本を見ながら「かえて」や参加した地域の方たちに教わって一緒に飾りを作りながら、本当に楽しそうにはじけるような笑顔を見せていました。また、地域の方たちもとてもうれしそうで元気滂刺に、笑顔で子どもたちの面倒を見てくださいました。学校と地域がWin-Winであるとともに、幼い子どもたちができる立派な地域貢献の一つであることを実感しました。

飾りと短冊を一緒につけ、最後は子どもたちのお礼の言葉と元気な歌声を届けて集会は終わりました。

学校と地域が連携・協働して子どもたちに豊かな学びと体験をもたらした貴重な時間でした。



今回は1学期に実践された布佐南小学校を取り上げて記事にしましたが、昨年度から多くの学校が地域の教育資源でもある「まち協」や「地区社協」と地域学校協働本部で緩やかなネットワークを構築しながら、子どもたちのために協働して取り組む事例が見られています。

また、この夏休みには、「子どもたちの学力向上」が学校運営協議会で取り上げられ、地域資源や学生ボランティアを駆使して学習会を実施する学校もあります。子どもたちのため、そしてさらなる地域との連携・協働を目指して機能できる学校運営協議会のあり方を各学校で模索していきましょう！